

---

# 177話 比較 Ver.1

吉川明人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

177話 比較 Ver.1

### 【Nコード】

N0185Z

### 【作者名】

吉川明人

### 【あらすじ】

凍りつくほど寒い日、一人暮らしのオレのマンションの部屋には、なぜか明かりがついていた。実験的な意味合いのSSです。

足の先から頭のとっぺんまで凍りつくほど寒い中、やっと外まわりの営業を終えたオレは残業もそこに帰宅の途についた。

一刻も早く熱い風呂に入って冷えた体を温めたい。でないといつ冷凍マグロとして出荷されてもおかしくない状態だ。

一人暮らしのオレは、マンション近くのコンビニに立ち寄ってアルミホイルの皿が付いた一人用の鍋焼きうどんを手にとった。

マンションにつくと、なぜかオレの部屋には明かりがついて、料理を作る音まで聞こえてくる。

「チツ……またあいつか」

舌打ちしながらいきなりドアを開けると、中にいた女がオレを見て固まってやがった。

「どうして……こんなに早く」

「今日はあんまり寒かったから、仕事を切り上げて帰ってきたんだ」  
答えながら女の手もとを見ると、できたばかりの鍋から美味そうな香りと湯気があがっている。

「あ、これ、トリ鍋。体が温まる材料も、たくさん入れてあるから……」

「分かった。とにかく体が冷え切ってるから風呂に入ってくる。先に食ってろ」

そう言っていると、よほど意外だったんだろう。女は驚いてオレを見る。

とにかくさっき買った鍋焼きうどんを冷蔵庫へ押しこんで、風呂を沸かし、熱い湯に肩までドップリつかるとようやくひと心地ついた。

部屋着に着替えて女のいるところへ戻ると、食器を用意したまま鍋には手をつけずに座って待っていた。

「先に食ってろって言ったろ」

「だけど、せつかくあなたと一緒になのに……」

「毒でも入れられてたらたまらないからな」

「ヒドイ。わたしがそんなことすると思うの？」

「思う。だから先に食え」

冷たく言ってやると、女は笑いながら煮えた具を自分の皿にすくって食べはじめる。

どうやら大丈夫のようなので、オレもひと口食ってみると案外うまい。

「おいしい？」

「まあまあだな」

それから女は具材のこだわりが何とか、趣味がどうか、最近身の回りで起きたこととかを一方的にしゃべり続けた。

「それはそうと……」

体も充分温まり腹も一杯になったところで、オレは女に尋ねる。

「おまえは誰だ？」

ニヤリと笑う女を今すぐ叩き出そうかと思ったが、今日の寒さは異常だ。

明日の朝、玄関前で冷たくなっていられると夢見が悪い。

オレのことを何もかも知っているという女から名前と住所、携帯番号を聞きだして鍋の礼を言い、普通に会うなら改めて会ってやると約束すると、呼んでやたタクシーで渋々ながら帰っていった。

まったく。オレは一応専門分野だから多少のことは気にしないからいいが、一般人ならたまらないだろうな。

明日あらためて、警視庁ストーリーカー対策室の上司に相談するつもりだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0185z/>

---

177話 比較 Ver.1

2011年11月30日22時48分発行